

# Public Voices 声のらん

皆さんの「声」にお答えします。



《声のらん》では、「市長への手紙・ポスト」などに寄せられた声とその答えの中から、市民の皆さんの参考になる問答をご紹介します。(内容確認のため、連絡先と名前をご記入ください。)  
【〒066-8686 / 東雲町2丁目34 / 千歳市企画部広報広聴課宛】

## 新千歳空港の民間委託とはどのようなことですか？

〔50歳代／男性〕

**声** 新聞報道などで目にする、「新千歳空港の民間委託」とは、どのようなことですか。また、委託されたときには、私たちにどのような影響があるのでしょうか。

**答** 国が空港の土地などの所有権を留保しつつ、民間事業者に運営権を売却し、滑走路などを一括して経営することです。また、民間資金の投入や経営能力の活用により、交流人口の拡大、新たな雇用の創出など地域経済の活性化を目指します。



企画部空港政策課  
お答えします  
☎(24)0522 FAX(22)8852

国などでは、平成32年度をめどに、道内7空港を一括して民間事業者が管理・運営を委託することになっています。現在、新千歳空港の滑走路などの管理・運営は、それぞれ異なる事業者が行っています。ですが、これらを一つの事業者に委託します。道内7空港の民間委託を行うため、今年の4月に国などが公募選定手続きを開始しました。事業者は、各空港のマーケティング力の

向上や航空ネットワークの充実など、地域経済の活性化につながる提案をすることになっています。

平成28年度に国管理空港で初めて民間委託された仙台空港の事例では、格安航空会社(LCC)の拠点化、柔軟な着陸料の設定、航空会社へのセールス強化などにより、昨年度、過去最高の乗降客数を記録しました。

現在、新千歳空港は、国内線と国際線を合わせて約227.2万人が利用しており、4年連続で過去最高を更新しています。

今後、多くの方が北海道へ訪れることが予想されるため、民間委託を通じて事業者と連携し、交流人口の拡大や新たな雇用の創出、人口の増加を目指します。

また、空港開港100年に向け、まち全体の活性化を目指すとともに、先人たちの想いを引き継ぎ、市民が《誇り》を持てる空港になるよう取り組みを進めます。



新市史下巻発刊に向けて

### 千歳鉱業所の職住分離と休山

筆者・守屋 憲治

シリーズ第8回(全12回)

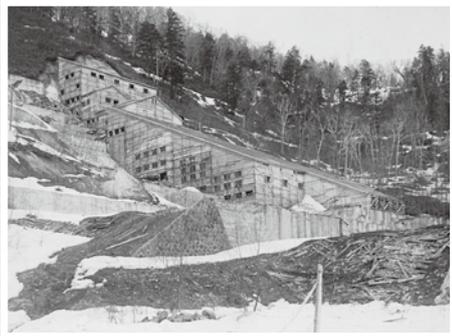
市史編さん担当  
☎(24)0523 FAX(42)3134

今から30年ほど前までの支笏国道(276号)の美笹峠登坂口一帯に千歳鉱山(株)千歳鉱業所があったことを知っていますか。昭和11年から61年2月の休山までに金21ト、銀81トを生産し、道内では紋別市の鴻之舞鉱山に並ぶ有名な金山でした。金の生産は46年の834kgをピークに漸減、人件費アップと金価格の低迷、高品位坑の枯渇、48年には金の輸入自由化による安い外国産金の流通が危惧されました。

また、千歳市街から美笹までの国道も44年に美笹トンネル、49年に支笏トンネルが開通し自動車通勤が可能となったのです。従業員から子弟の教育を考え、市街地に住みたいとの要望があり、労使交渉を経て職住分離の方針が決定、雇用促進住宅真町宿舎へ入居するこ

とになりました。52年10月に千歳鉱山小学校(11年開校)・中学校(22年開校)が開校、11月には職住分離が終了し、市役所的美笹支所(28年開設)も廃止となりました。戦時下、従業員とその家族で千歳全体の3分の1を超える約5千人が生活していましたが、最後は160人ほどになっていました。

平成に入ってからは国道沿いに残っていた鉱業所関連の建物も取り壊され、金山でにぎわった痕跡をなにも見いだせなくなりました。



「原鉱石から金を選別する施設(昭和26年)」現在は苔むしたコンクリートの基礎部分が残る。